

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105524		
法人名	合資会社 福寿万記の里		
事業所名	グループホーム 福寿万記の里		
所在地	岡山市中区賞田265-1		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入所されている方及びそのご家族の要望に対しては、できるだけ期待に沿えるように努めています。食事に関しては、手作りで提供し、外注した食事からは出ない、家庭の味を提供できるように心がけている。(アットホームな環境づくりをすることで、利用者様及びそのご家族様に喜んでいただけるよう施設造りをしている。)健康管理面については、1週間に1度、内科医の先生が往診に来て頂いているので、利用者様のちょっとした変化にも比較的短時間で気付くことができ、その症状にあった対応をさせて頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105524-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 2 月 10 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長が「福寿万記の里の誇りは、職員の素晴らしさだ。」と語った通り、利用者に寄り添った気遣い・心遣いを伴ったケアが行われている。勤続年数が長い職員が多く、施設の方針を理解し毎日のケアに自然と活かしている。利用者が何を望み、何をしたいかを寄り添うことで汲み取り、家族からの要望にもできる限り対応し、ケアに反映させている。SNSを活用した家族との密な連絡も、ケアに反映させやすい環境を生み、利用者だけでなく家族の安心に繋がっている。施設長は中学校からの依頼で、福祉の職場説明に行ったり、施設を地域の避難場所とするなど、外部と施設のあり方について、積極的に働きかけ、夏祭りや秋祭りの開催や、ボランティアの受け入れを再開する等を検討している。その姿勢と信頼できる職員により、地域の方々との交流が、今後さらに深まることが期待できよう。また、地域のあらゆる世代からの意見を取り入れ、施設や福祉業界のために活用できる様、施設長は取り組んでおり、積極的な行動力は職員にも波及して更なる人材育成に繋がっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念の唱和を行い、事業所理念を確認することで1日をスタートしている。	理念は玄関、カルチャールーム、管理室に掲示している。朝礼時に唱和したり、職員会議の際に振り返りの時間を設けている。新人研修の際に施設長が、理念に基づく資料を使って説明し意識づけを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設のイベントへ地域の方に参加して頂き、交流を深めている。ただし、コロナ禍が始まってからは、ほとんど交流を持っていない。	町内会の会議場所として施設を提供している。支援学校の方の職業訓練の受け入れを随時行っている。地域の農家からお米を購入し、季節ごとの旬の野菜を頂いている。散歩の際に近隣の方と挨拶を交わしている。町内会長から地域の行事や情報を得ている。施設長は地域の清掃に参加している。	地域との交流を深める取り組みをしてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に地域推進会議にて意見を交換している。また、中学校の職場説明会に出向き、介護の仕事内容や、認知症の人との付き合い方を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設発行の資料にて行事報告やその他情報を外部に向けて情報発信をしている。また会議において意見を交換している。ただし、コロナ禍においては推進会議自体を书面開催にしているため、意見の交換ができていないのが現状。	コロナ禍は書面を郵送していたが、コロナ5類後は奇数月に対面で行っている。町内会長、老人会、民生委員、地域包括支援センター、家族代表が参加している。事業報告、施設入居状況、面会について等を報告した。災害時における意見が多くあり、施設を地域の避難場所として町内会に連絡している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターに会議の出席を依頼し、その場で現状を伝えている。ただし、連絡は密にはとれておらず、問い合わせ時や会議の時のみの連絡になっている。	地域包括センターとは、ケアマネジャーが窓口となり、入居状況確認等について相談している。社会福祉協議会の窓口は、ケアマネジャーと施設長が行っており、研修案内やふれあいセンターでの催しの案内などがメールで来ることが多い。研修内容を職員のメールに流し、職員が研修を選ぶことができる体制がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行っておらず、内部研修などを通じて、あらゆる代替案を考え、ケアに取り組んでいる。やむを得ず行う場合は原則に従い、家族に了承を得てから行っている。	身体拘束委員会を年4回行っている。研修資料として、施設内のヒヤリハットの事例を集めたり、他施設の虐待のニュース等について話し合いケアに反映させている。スピーチロックについては、「ちょっと待って。」といった後に、理由や時間を具体的に利用者に説明するように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修でも毎年虐待防止の研修を行い、いつ虐待のサインが発信されていても気付けるように心がけてケアを行っている。またフロアにカメラをつけ、監視することで、いきすぎた対応を抑制している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去の活用例から、成年後見制度の仕組みと活用方法については必要な時にできるように準備はできている。また制度を知らない職員に対し、研修を通じて管理者が説明する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の段階から運営規定と重要事項を説明し、契約時には契約内容に十分理解を頂いてうえで、同意書等を作成している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアに対する要望は、職員に直接、気軽に発言していただけるような環境作りをすることで、運営に反映している。また意見箱を設置することで匿名での要望も受けれるようにしている。 外部評価で実施されたアンケート結果にも着目し、改善点を管理者会議などで話し合っている。	面会の際や電話で意見を聞くようにしている。”布団を毎日干してほしい”との要望があり、できる限り対応する旨を説明して対応している。また、“カップラーメンが食べたい”と要望され、メニューに取り入れたことがある。各フロアと家族とが個別のSNSで繋がっており、連絡が道になるツールとして役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月次の管理者会議でフロア職員の意見を聞く機会を設けている。また必要な場合には職員との面談や、現場の声を把握するため、ケア会議にも参加している。	月1回、主任会議があり、管理者を中心に職員の意見を反映できるようにしている。年2回、施設長が職員と面談している。職員の意見で、利用者の見守りカメラを導入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回各職員の自己評価を基に労働条件の見直しを行っている。またそこで出た各職員の評価を面談にてフィードバックして、評価した点、改善点などを具体的に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に最低1回は内部研修を行い、ケアスキルの底上げを行っている。また外部研修も偏りが無いよう、各職員のスキルを把握した上で受講させている。内部研修についてはコロナ感染防止の観点から、スマホやパソコンで受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最低限の情報交換を行うネットワークは構築したが、十分ではないので、今後の課題と認識している。コロナ禍では直接交流が難しいので、代替案を模索している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居する際は、利用者本人と会話する機会を多く設け、困っていることや不安なことを聞いて安心感を与えられるように努めている。また家族からも今までの過ごし方を聞くことで、施設で安心して過ごしてもらえるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階で利用者のご家族と面談する機会を設け、本人の主訴やご家族の希望を取り入れたケアプランを作成しており、時間をかけて信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学时や面談時に今何に困っていて、どんなことが必要かを把握し、サービス提供している。また必要に応じて入居フロアの職員で会議を設け、必要な対応を協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを一番に考え、各利用者の気持ちに応えられるよう関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は常に家族と共同で支援する立場でサービスを提供している。(互いに、本人ができることを継続し、できないことを支援する形の関係作りに努めている。)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際は、職員を抜きにした面会の場を提供している。面会後も職員が利用者に対し、話を聞くことで、昔のことを回顧してもらい、本人と訪問者との関係が途切れないように支援している。ただし、コロナ感染防止の観点から、感染者が多い時期には直接面会を制限させてもらっている。	面会は感染対策をした上で、管理室や居室で予約制で対面で行っている。利用者の昔の仲間が訪ねて来た際には、和やかに会話を楽しんだ。かかりつけ医が馴染みの関係となり、往診の際に目を輝かせている利用者がある。近くのスーパーに買い物に行った時に、元職員と出会い懐かしさで会話が弾んだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各人のレベルを把握し、利用者同士がスムーズに会話できるよう、間に入って話題を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所になった場合でも、いつでも相談できる窓口を伝え、本人とご家族へのフォローアップも忘れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とご家族の要望を取り入れたケアプランに基づきケアを提供し、可能な限り寄り添う介護を目指している。	発語が困難な方には、日頃の仕草や表情から汲み取り、家族からも聞き取りをして思いの把握に努めている。利用者の情報はパソコンに入力し、職員間で情報共有してケアに反映させている。家族とはSNSで密な連絡をしており、情報が得やすい環境がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に行う面談でフェイスシートを作成し、これまでの生活環境などの情報を対応にあたる職員全員と共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月行っている現場での会議(ケア会議)にて、モニタリングシートの状況と職員との意見交換など通じて現状把握に努めている。 また必要な場合にはフロア単位で集まる機会を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議にて各利用者の課題点を話し合い、それをベースにしたケアプランを作成し、ご家族に意見を伺いながらプランを作成している。モニタリングを行うことで、提供するケア内容とケアプランの内容の誤差が無いように努めている。	入居時に作成したケアプランは、1か月後に見直し、何もなければ6か月後にケア会議にて話し合い、利用者の状況に応じて作成している。月1回のケア会議では、職員の意見とADL確認シートを基に、利用者個別のより良いケアについて話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のケア会議で簡易アセスメント及びモニタリングシートを使いながら現状を共有し、ケアプラン見直しの際はアセスメントを再度行いながら作成するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に合わせて面会時間の変更やご家族ができないことは施設ができる範囲で実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書の利用やレクレーションとしてビデオ鑑賞、紙芝居を行い、普段から楽しめるように工夫している。また目標を決めて図画・工作を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に施設のかかりつけの医療機関を説明し、納得していただければ担当医の変更をお願いするが、強制ではないので、入居前の担当医で継続する場合でも受診に差支えが無いように支援を行っている。	かかりつけ医にほとんどの利用者が転医している。週1回の往診があり、日頃も不定期だが、利用者の様子を見に来てくれる。24時間対応してくれる。施設内の看護師を増員し、利用者や職員の安心に繋げている。歯科は週1~2回の訪問があり、口腔ケアやブラッシングケアの指導がある。他科への受診は職員が行い、家族に結果を報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化があったときは看護師に早急に連絡し、指示を仰いでいる。また必要な場合には家族や医師に連絡ができるような体制もできている。今年度途中から、看護師を2人体制にし、急変時の対応などに人員の余裕を持たせている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病状、治療方法、退院の目処や退院後の生活について病院側と密に連絡を取り合い、入院前の状態にできるだけ早く復帰できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設としてのターミナルケアの方法を説明している。また重度化してきた場合や終末期が近づいてきた際には改めて家族と面談を行い、本人・家族の希望に沿って今後の方針を決定している。	看取りは可能で、近年2名を看取った。入所時に重要事項説明書で看取りに関して家族に意向確認をし、終末期に差し掛かった際には再度、家族、医師、施設の三者で話し合いの場を設けている。デスカンファレンスでは、エンジェルケアや家族への連絡のタイミングについての意見が挙がり、今後のケアに反映させている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で緊急時の対応は各職員が把握できるようにしており、応急手当などは定期的に専門家の指導のもと、訓練・実習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域推進会議で地域との連携を確認するとともに、避難方法も年2回の避難訓練とBCPIに基づく訓練の中で対応力を強化できるようにしている。	年2回昼夜想定で、火災・水害訓練を実施して、AEDの研修もできた。連絡網を実際にSNSで行い、より早く連絡できるように新たに職員の緊急連絡グループ網を設けた。施設を避難場所として町内会に伝えている。備蓄は菓子、缶詰、水3日分と衛生品を施設の2.3階に準備している。	災害時の対応や地域との連携について更に検討してはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、更衣、トイレ使用時やパッド交換の時はプライバシーに配慮し、言葉かけや、他の利用者・職員と距離をとって対応している。	年1回、接遇やプライバシー保護の研修を行っている。呼称は基本的には苗字にさん付けで呼んでいる。反応が良い下の名前やあだ名で呼ぶことがあるが、本人や家族に了承は得ている。排泄失敗時には、さりげなく声をかけ、プライバシーに配慮して、居室やトイレに誘導し対処している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	先に目的や答えを言ったり、誘導するのではなく、利用者がまず何をしたいかを聞き、利用者が自立できるように工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にあった、その人らしい時間が流れるように本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や、女性の場合はお化粧についても本人の自己決定を優先し、意欲を引き出すような言葉かけを心がけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを作る段階で利用者の意見を取り入れるようにし、準備や後片付けに関しても、可能な方にはできるだけ手伝ってもらっている。	調理専門の職員が昼・夕食を作り、ご飯とお味噌汁は各フロアで作っている。お正月にはおせちや雑煮を、ひな祭りにはお寿司を提供した。利用者の要望でカップラーメンを提供した時は、珍しいと喜ばれた。地域の方から頂いた旬の野菜を使った料理が出されることがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分の摂取量は都度記録をとり、十分な栄養が取れるように職員間で連絡をとりあっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれのADLに応じて口腔ケアの準備をしたり、口腔ケア自体を行ったりして口腔面の衛生管理を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各職員はパッドをしているからトイレに行かなくていいという認識はなく、あくまで排泄はトイレで行うものだという認識でケアにあたっている。	排泄チェックシートは、タブレットで管理している。排泄チェックシートやケアプランにより、タイミングをみて利用者に応じた言葉掛けをしている。利用者の希望や状況に応じて、ポータブルトイレを夜間のみ利用している方も数名いるが、できるだけトイレ誘導に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録に残し、便秘予防に努めている。また必要な場合には往診時に整腸剤を処方してもらったり、看護師による処置を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調やその時の気分などを考慮してその人に合った入浴を行っている。	入浴は週2回提供している。入浴剤は利用者の好みに応じて使用している。ゆず湯やしょうぶ湯を提供し、季節を感じる工夫を行っている。入浴を嫌がる利用者には、職員や時間を変えるだけでなく、“お風呂”というワードを使わず自然に誘導する工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が自由にできるようにしている。ただし、ずっと部屋にひきこもりにならないように都度声かけを行い、共同生活している他の利用者との交流の場も提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方された際は処方箋についてくる薬の説明書きに眼を通し、薬の効能や副作用について確認を行っている。また研修でも服薬についての勉強会を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今出来る事は継続してできるよう、自室の掃除や下膳、私物の整理など出来ることはしていただき、レクリエーション参加による気分転換も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣を散歩したり、ご家族のご協力を得て美容院や図書館、スーパー等へ出掛けたりしている。コロナ禍においては感染予防のため、制限していることが多くなっている。	利用者と一緒に近くのお店へ出掛け、食品や手芸用品を買っている。馴染みの美容院や近隣の図書館へ家族と行くこともある。桜が咲く季節には、お茶会を庭で行なっている。桜の前でピースサインをした満面の笑顔の写真からも楽しそうな様子が伺えた。ドライブで自宅付近や後樂園へ行き、気分転換となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の金銭トラブル防止の観点から、基本的に利用者様に金銭を所持していただくことは遠慮していただいているが、必要な場合においては、事務所管理するなど、各々に応じた対応をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を作成する支援や、ご家族に負担の無い範囲で電話をかけることへの支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節を感じる飾りつけを行っている。また、フロア毎に利用者様の写真を飾ったりするなど、工夫をこらしている。	施設内にある桜が毎年咲き、心の癒しとなっている。壁面には季節を感じる桜の木の貼り絵が貼られている。利用者は午前中はリビングで、リハビリ体操やレクリエーション活動を行っている。職員による日本昔話の朗読会が行われることがある。午後からは一旦居室で寛ぎ、おやつの時間以降はリビングで職員と談笑して過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングより少し離れたソファやベンチ等で気の合う利用者様同士が会話したり、ゆったりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの家具以外にも、使い慣れたものや本人の趣旨にあったものを置いてもらい、自宅のように過ごせるような空間を提供できるように努めている。	居室の表札には住所や郵便ポストが備え付けられている。仏壇や使い慣れた家具を置き、家族に思いを馳せている利用者がある。テレビやラジオを楽しんだり、昼寝をして寛ぎの時間を過ごしている。清掃は職員が毎日行い、清潔に保たれている。家族写真や職員手作りの誕生日カードを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLにあった支援策をケア会議等で都度検討し、安全かつ自立支援を推進できるようなケアを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105524		
法人名	合資会社 福寿万記の里		
事業所名	グループホーム 福寿万記の里		
所在地	岡山市中区賞田265-1		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入所されている方及びそのご家族の要望に対しては、できるだけ期待に沿えるように努めています。食事に関しては、手作りで提供し、外注した食事からは出ない、家庭の味を提供できるように心がけている。(アットホームな環境づくりをすることで、利用者様及びそのご家族様に喜んでいただけるよう施設造りをしている。)健康管理面については、1週間に1度、内科医の先生が往診に来て頂いているので、利用者様のちょっとした変化にも比較的短時間で気付くことができ、その症状にあった対応をさせて頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105524-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 2 月 10 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長が「福寿万記の里の誇りは、職員の素晴らしさだ。」と語った通り、利用者寄り添った気遣い・心遣いを伴ったケアが行われている。勤続年数が長い職員が多く、施設の方針を理解し毎日のケアに自然と活かしている。利用者が何を望み、何をしたいかを寄り添うことで汲み取り、家族からの要望にもできる限り対応し、ケアに反映させている。SNSを活用した家族との密な連絡も、ケアに反映させやすい環境を生み、利用者だけでなく家族の安心に繋がっている。施設長は中学校からの依頼で、福祉の職場説明に行ったり、施設を地域の避難場所とするなど、外部と施設のあり方について、積極的に働きかけ、夏祭りや秋祭りの開催や、ボランティアの受け入れを再開する等を検討している。その姿勢と信頼できる職員により、地域の方々との交流が、今後さらに深まることが期待できよう。また、地域のあらゆる世代からの意見を取り入れ、施設や福祉業界のために活用できる様、施設長は取り組んでおり、積極的な行動力は職員にも波及して更なる人材育成に繋がっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念の唱和を行い、事業所理念を確認することで1日をスタートしている。	理念は玄関、カルチャールーム、管理室に掲示している。朝礼時に唱和したり、職員会議の際に振り返りの時間を設けている。新人研修の際に施設長が、理念に基づく資料を使って説明し意識づけを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設のイベントへ地域の方に参加して頂き、交流を深めている。ただし、コロナ禍が始まってからは、ほとんど交流を持っていない。	町内会の会議場所として施設を提供している。支援学校の方の職業訓練の受け入れを随時行っている。地域の農家からお米を購入し、季節ごとの旬の野菜を頂いている。散歩の際に近隣の方と挨拶を交わしている。町内会長から地域の行事や情報を得ている。施設長は地域の清掃に参加している。	地域との交流を深める取り組みをしてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に地域推進会議にて意見を交換している。また、中学校の職場説明会に出向き、介護の仕事内容や、認知症の人との付き合い方を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設発行の資料にて行事報告やその他情報を外部に向けて情報発信をしている。また会議において意見を交換している。ただし、コロナ禍においては推進会議自体を书面開催にしているため、意見の交換ができていないのが現状。	コロナ禍は書面を郵送していたが、コロナ5類後は奇数月に対面で行っている。町内会長、老人会、民生委員、地域包括支援センター、家族代表が参加している。事業報告、施設入居状況、面会について等を報告した。災害時における意見が多くあり、施設を地域の避難場所として町内会に連絡している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターに会議の出席を依頼し、その場で現状を伝えている。ただし、連絡は密にはとれておらず、問い合わせ時や会議の時のみの連絡になっている。	地域包括センターとは、ケアマネジャーが窓口となり、入居状況確認等について相談している。社会福祉協議会の窓口は、ケアマネジャーと施設長が行っており、研修案内やふれあいセンターでの催しの案内などがメールで来ることが多い。研修内容を職員のメールに流し、職員が研修を選ぶことができる体制がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行っておらず、内部研修などを通じて、あらゆる代替案を考え、ケアに取り組んでいる。やむを得ず行う場合は原則に従い、家族に了承を得てから行っている。	身体拘束委員会を年4回行っている。研修資料として、施設内のヒヤリハットの事例を集めたり、他施設の虐待のニュース等について話し合いケアに反映させている。スピーチロックについては、「ちょっと待って。」といった後に、理由や時間を具体的に利用者に説明するように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修でも毎年虐待防止の研修を行い、いつ虐待のサインが発信されていても気付けるように心がけてケアを行っている。またフロアにカメラをつけ、監視することで、いきすぎた対応を抑制している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去の活用例から、成年後見制度の仕組みと活用方法については必要な時にできるように準備はできている。また制度を知らない職員に対し、研修を通じて管理者が説明する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の段階から運営規定と重要事項を説明し、契約時には契約内容に十分理解を頂いてうえで、同意書等を作成している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアに対する要望は、職員に直接、気軽に発言していただけるような環境作りをすることで、運営に反映している。また意見箱を設置することで匿名での要望も受けれるようにしている。 外部評価で実施されたアンケート結果にも着目し、改善点を管理者会議などで話し合っている。	面会の際や電話で意見を聞くようにしている。”布団を毎日干してほしい”との要望があり、できる限り対応する旨を説明して対応している。また、“カップラーメンが食べたい”と要望され、メニューに取り入れたことがある。各フロアと家族とが個別のSNSで繋がっており、連絡が道になるツールとして役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月次の管理者会議でフロア職員の意見を聞く機会を設けている。また必要な場合には職員との面談や、現場の声を把握するため、ケア会議にも参加している。	月1回、主任会議があり、管理者を中心に職員の意見を反映できるようにしている。年2回、施設長が職員と面談している。職員の意見で、利用者の見守りカメラを導入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回各職員の自己評価を基に労働条件の見直しを行っている。またそこで出た各職員の評価を面談にてフィードバックして、評価した点、改善点などを具体的に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に最低1回は内部研修を行い、ケアスキルの底上げを行っている。また外部研修も偏りが無いよう、各職員のスキルを把握した上で受講させている。内部研修についてはコロナ感染防止の観点から、スマホやパソコンで受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最低限の情報交換を行うネットワークは構築したが、十分ではないので、今後の課題と認識している。コロナ禍では直接交流が難しいので、代替案を模索している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居する際は、利用者本人と会話する機会を多く設け、困っていることや不安なことを聞いて安心感を与えられるように努めている。また家族からも今までの過ごし方を聞くことで、施設で安心して過ごしてもらえるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階で利用者のご家族と面談する機会を設け、本人の主訴やご家族の希望を取り入れたケアプランを作成しており、時間をかけて信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時や面談時に今何に困っていて、どんなことが必要かを把握し、サービス提供している。また必要に応じて入居フロアの職員で会議を設け、必要な対応を協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを一番に考え、各利用者の気持ちに応えられるよう関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は常に家族と共同で支援する立場でサービスを提供している。(互いに、本人ができることを継続し、できないことを支援する形の関係作りに努めている。)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際は、職員を抜きにした面会の場を提供している。面会後も職員が利用者に対し、話を聞くことで、昔のことを回顧してもらい、本人と訪問者との関係が途切れないように支援している。ただし、コロナ感染防止の観点から、感染者が多い時期には直接面会を制限させてもらっている。	面会は感染対策をした上で、管理室や居室で予約制で対面で行っている。利用者の昔の仲間が訪ねて来た際には、和やかに会話を楽しんだ。かかりつけ医が馴染みの関係となり、往診の際に目を輝かせている利用者がある。近くのスーパーに買い物に行った時に、元職員と出会い懐かしさで会話が弾んだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各人のレベルを把握し、利用者同士がスムーズに会話できるよう、間に入って話題を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所になった場合でも、いつでも相談できる窓口を伝え、本人とご家族へのフォローアップも忘れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とご家族の要望を取り入れたケアプランに基づきケアを提供し、可能な限り寄り添う介護を目指している。	発語が困難な方には、日頃の仕草や表情から汲み取り、家族からも聞き取りをして思いの把握に努めている。利用者の情報はパソコンに入力し、職員間で情報共有してケアに反映させている。家族とはSNSで密な連絡をしており、情報が得やすい環境がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に行う面談でフェイスシートを作成し、これまでの生活環境などの情報を対応にあたる職員全員と共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月行っている現場での会議(ケア会議)にて、モニタリングシートの状況と職員との意見交換など通じて現状把握に努めている。 また必要な場合にはフロア単位で集まる機会を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議にて各利用者の課題点を話し合い、それをベースにしたケアプランを作成し、ご家族に意見を伺いながらプランを作成している。モニタリングを行うことで、提供するケア内容とケアプランの内容の誤差が無いように努めている。	入居時に作成したケアプランは、1か月後に見直し、何もなければ6か月後にケア会議にて話し合い、利用者の状況に応じて作成している。月1回のケア会議では、職員の意見とADL確認シートを基に、利用者個別のより良いケアについて話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のケア会議で簡易アセスメント及びモニタリングシートを使いながら現状を共有し、ケアプラン見直しの際はアセスメントを再度行いながら作成するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に合わせて面会時間の変更やご家族ができないことは施設ができる範囲で実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書の利用やレクレーションとしてビデオ鑑賞、紙芝居を行い、普段から楽しめるように工夫している。また目標を決めて図画・工作を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に施設のかかりつけの医療機関を説明し、納得していただければ担当医の変更をお願いするが、強制ではないので、入居前の担当医で継続する場合でも受診に差支えが無いように支援を行っている。	かかりつけ医にほとんどの利用者が転医している。週1回の往診があり、日頃も不定期だが、利用者の様子を見に来てくれる。24時間対応してくれる。施設内の看護師を増員し、利用者や職員の安心に繋げている。歯科は週1~2回の訪問があり、口腔ケアやブラッシングケアの指導がある。他科への受診は職員が行い、家族に結果を報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化があったときは看護師に早急に連絡し、指示を仰いでいる。また必要な場合には家族や医師に連絡ができるような体制もできている。今年度途中から、看護師を2人体制にし、急変時の対応などに人員の余裕を持たせている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病状、治療方法、退院の目処や退院後の生活について病院側と密に連絡を取り合い、入院前の状態にできるだけ早く復帰できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設としてのターミナルケアの方法を説明している。また重度化してきた場合や終末期が近づいてきた際には改めて家族と面談を行い、本人・家族の希望に沿って今後の方針を決定している。	看取りは可能で、近年2名を看取った。入所時に重要事項説明書で看取りに関して家族に意向確認をし、終末期に差し掛かった際には再度、家族、医師、施設の三者で話し合いの場を設けている。デスカンファレンスでは、エンジェルケアや家族への連絡のタイミングについての意見が挙がり、今後のケアに反映させている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で緊急時の対応は各職員が把握できるようにしており、応急手当などは定期的に専門家の指導のもと、訓練・実習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域推進会議で地域との連携を確認するとともに、避難方法も年2回の避難訓練とBCPIに基づく訓練の中で対応力を強化できるようにしている。	年2回昼夜想定で、火災・水害訓練を実施して、AEDの研修もできた。連絡網を実際にSNSで行い、より早く連絡できるように新たに職員の緊急連絡グループ網を設けた。施設を避難場所として町内会に伝えている。備蓄は菓子、缶詰、水3日分と衛生品を施設の2.3階に準備している。	災害時の対応や地域との連携について更に検討してはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、更衣、トイレ使用時やパッド交換の時はプライバシーに配慮し、言葉かけや、他の利用者・職員と距離をとって対応している。	年1回、接遇やプライバシー保護の研修を行っている。呼称は基本的には苗字にさん付けで呼んでいる。反応が良い下の名前やあだ名で呼ぶことがあるが、本人や家族に了承は得ている。排泄失敗時には、さりげなく声をかけ、プライバシーに配慮して、居室やトイレに誘導し対処している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	先に目的や答えを言ったり、誘導するのではなく、利用者がまず何をしたいかを聞き、利用者が自立できるように工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にあった、その人らしい時間が流れるように本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や、女性の場合はお化粧についても本人の自己決定を優先し、意欲を引き出すような言葉かけを心がけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを作る段階で利用者の意見を取り入れるようにし、準備や後片付けに関しても、可能な方にはできるだけ手伝ってもらっている。	調理専門の職員が昼・夕食を作り、ご飯とお味噌汁は各フロアで作っている。お正月にはおせちや雑煮を、ひな祭りにはお寿司を提供した。利用者の要望でカップラーメンを提供した時は、珍しいと喜ばれた。地域の方から頂いた旬の野菜を使った料理が出されることがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分の摂取量は都度記録をとり、十分な栄養が取れるように職員間で連絡をとりあっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれのADLに応じて口腔ケアの準備をしたり、口腔ケア自体を行ったりして口腔面の衛生管理を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各職員はパッドをしているからトイレに行かなくていいという認識はなく、あくまで排泄はトイレで行うものだという認識でケアにあたっている。	排泄チェックシートは、タブレットで管理している。排泄チェックシートやケアプランにより、タイミングをみて利用者に応じた言葉掛けをしている。利用者の希望や状況に応じて、ポータブルトイレを夜間のみ利用している方も数名いるが、できるだけトイレ誘導に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録に残し、便秘予防に努めている。また必要な場合には往診時に整腸剤を処方してもらったり、看護師による処置を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調やその時の気分などを考慮してその人に合った入浴を行っている。	入浴は週2回提供している。入浴剤は利用者の好みに応じて使用している。ゆず湯やしょうぶ湯を提供し、季節を感じる工夫を行っている。入浴を嫌がる利用者には、職員や時間を変えるだけでなく、“お風呂”というワードを使わず自然に誘導する工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が自由にできるようにしている。ただし、ずっと部屋にひきこもりにならないように都度声かけを行い、共同生活している他の利用者との交流の場も提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方された際は処方箋についてくる薬の説明書きに眼を通し、薬の効能や副作用について確認を行っている。また研修でも服薬についての勉強会を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今出来る事は継続してできるよう、自室の掃除や下膳、私物の整理など出来ることはしていただき、レクリエーション参加による気分転換も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣を散歩したり、ご家族のご協力を得て美容院や図書館、スーパー等へ出掛けたりしている。コロナ禍においては感染予防のため、制限していることが多くなっている。	利用者と一緒に近くのお店へ出掛け、食品や手芸用品を買っている。馴染みの美容院や近隣の図書館へ家族と行くこともある。桜が咲く季節には、お茶会を庭で行なっている。桜の前でピースサインをした満面の笑顔の写真からも楽しそうな様子が伺えた。ドライブで自宅付近や後樂園へ行き、気分転換となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の金銭トラブル防止の観点から、基本的に利用者様に金銭を所持していただくことは遠慮していただいているが、必要な場合においては、事務所管理するなど、各々に応じた対応をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を作成する支援や、ご家族に負担の無い範囲で電話をかけることへの支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節を感じる飾りつけを行っている。また、フロア毎に利用者様の写真を飾ったりするなど、工夫をこらしている。	施設内にある桜が毎年咲き、心の癒しとなっている。壁面には季節を感じる桜の木の貼り絵が貼られている。利用者は午前中はリビングで、リハビリ体操やレクリエーション活動を行っている。職員による日本昔話の朗読会が行われることがある。午後からは一旦居室で寛ぎ、おやつの時間以降はリビングで職員と談笑して過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングより少し離れたソファやベンチ等で気の合う利用者様同士が会話したり、ゆったりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの家具以外にも、使い慣れたものや本人の趣旨にあったものを置いてもらい、自宅のように過ごしているような空間を提供できるように努めている。	居室の表札には住所や郵便ポストが備え付けられている。仏壇や使い慣れた家具を置き、家族に思いを馳せている利用者がある。テレビやラジオを楽しんだり、昼寝をして寛ぎの時間を過ごしている。清掃は職員が毎日行い、清潔に保たれている。家族写真や職員手作りの誕生日カードを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLにあった支援策をケア会議等で都度検討し、安全かつ自立支援を推進できるようなケアを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105524		
法人名	合資会社 福寿万記の里		
事業所名	グループホーム 福寿万記の里		
所在地	岡山市中区賞田265-1		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入所されている方及びそのご家族の要望に対しては、できるだけ期待に沿えるように努めています。食事に関しては、手作りで提供し、外注した食事からは出ない、家庭の味を提供できるように心がけている。(アットホームな環境づくりをすることで、利用者様及びそのご家族様に喜んでいただけるよう施設造りをしている。)健康管理面については、1週間に1度、内科医の先生が往診に来て頂いているので、利用者様のちょっとした変化にも比較的短時間で気付くことができ、その症状にあった対応をさせて頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105524-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 2 月 10 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長が「福寿万記の里の誇りは、職員の素晴らしさだ。」と語った通り、利用者寄り添った気遣い・心遣いを伴ったケアが行われている。勤続年数が長い職員が多く、施設の方針を理解し毎日のケアに自然と活かしている。利用者が何を望み、何をしたいかを寄り添うことで汲み取り、家族からの要望にもできる限り対応し、ケアに反映させている。SNSを活用した家族との密な連絡も、ケアに反映させやすい環境を生み、利用者だけでなく家族の安心に繋がっている。施設長は中学校からの依頼で、福祉の職場説明に行ったり、施設を地域の避難場所とするなど、外部と施設のあり方について、積極的に働きかけ、夏祭りや秋祭りの開催や、ボランティアの受け入れを再開する等を検討している。その姿勢と信頼できる職員により、地域の方々との交流が、今後さらに深まることが期待できよう。また、地域のあらゆる世代からの意見を取り入れ、施設や福祉業界のために活用できる様、施設長は取り組んでおり、積極的な行動力は職員にも波及して更なる人材育成に繋がっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念の唱和を行い、事業所理念を確認することで1日をスタートしている。	理念は玄関、カルチャールーム、管理室に掲示している。朝礼時に唱和したり、職員会議の際に振り返りの時間を設けている。新人研修の際に施設長が、理念に基づく資料を使って説明し意識づけを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設のイベントへ地域の方に参加して頂き、交流を深めている。ただし、コロナ禍が始まってからは、ほとんど交流を持っていない。	町内会の会議場所として施設を提供している。支援学校の方の職業訓練の受け入れを随時行っている。地域の農家からお米を購入し、季節ごとの旬の野菜を頂いている。散歩の際に近隣の方と挨拶を交わしている。町内会長から地域の行事や情報を得ている。施設長は地域の清掃に参加している。	地域との交流を深める取り組みをしてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に地域推進会議にて意見を交換している。また、中学校の職場説明会に出向き、介護の仕事内容や、認知症の人との付き合い方を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設発行の資料にて行事報告やその他情報を外部に向けて情報発信をしている。また会議において意見を交換している。ただし、コロナ禍においては推進会議自体を书面開催にしているため、意見の交換ができていないのが現状。	コロナ禍は書面を郵送していたが、コロナ5類後は奇数月に対面で行っている。町内会長、老人会、民生委員、地域包括支援センター、家族代表が参加している。事業報告、施設入居状況、面会について等を報告した。災害時における意見が多くあり、施設を地域の避難場所として町内会に連絡している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターに会議の出席を依頼し、その場で現状を伝えている。ただし、連絡は密にはとれておらず、問い合わせ時や会議の時のみの連絡になっている。	地域包括センターとは、ケアマネジャーが窓口となり、入居状況確認等について相談している。社会福祉協議会の窓口は、ケアマネジャーと施設長が行っており、研修案内やふれあいセンターでの催しの案内などがメールで来ることが多い。研修内容を職員のメールに流し、職員が研修を選ぶことができる体制がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行っておらず、内部研修などを通じて、あらゆる代替案を考え、ケアに取り組んでいる。やむを得ず行う場合は原則に従い、家族に了承を得てから行っている。	身体拘束委員会を年4回行っている。研修資料として、施設内のヒヤリハットの事例を集めたり、他施設の虐待のニュース等について話し合いケアに反映させている。スピーチロックについては、「ちょっと待って。」といった後に、理由や時間を具体的に利用者に説明するように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修でも毎年虐待防止の研修を行い、いつ虐待のサインが発信されていても気付けるように心がけてケアを行っている。またフロアにカメラをつけ、監視することで、いきすぎた対応を抑制している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去の活用例から、成年後見制度の仕組みと活用方法については必要な時にできるように準備はできている。また制度を知らない職員に対し、研修を通じて管理者が説明する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の段階から運営規定と重要事項を説明し、契約時には契約内容に十分理解を頂いてうえで、同意書等を作成している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアに対する要望は、職員に直接、気軽に発言していただけるような環境作りをすることで、運営に反映している。また意見箱を設置することで匿名での要望も受けれるようにしている。 外部評価で実施されたアンケート結果にも着目し、改善点を管理者会議などで話し合っている。	面会の際や電話で意見を聞くようにしている。”布団を毎日干してほしい”との要望があり、できる限り対応する旨を説明して対応している。また、“カップラーメンが食べたい”と要望され、メニューに取り入れたことがある。各フロアと家族とが個別のSNSで繋がっており、連絡が道になるツールとして役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月次の管理者会議でフロア職員の意見を聞く機会を設けている。また必要な場合には職員との面談や、現場の声を把握するため、ケア会議にも参加している。	月1回、主任会議があり、管理者を中心に職員の意見を反映できるようにしている。年2回、施設長が職員と面談している。職員の意見で、利用者の見守りカメラを導入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回各職員の自己評価を基に労働条件の見直しを行っている。またそこで出た各職員の評価を面談にてフィードバックして、評価した点、改善点などを具体的に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に最低1回は内部研修を行い、ケアスキルの底上げを行っている。また外部研修も偏りが無いよう、各職員のスキルを把握した上で受講させている。内部研修についてはコロナ感染防止の観点から、スマホやパソコンで受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最低限の情報交換を行うネットワークは構築したが、十分ではないので、今後の課題と認識している。コロナ禍では直接交流が難しいので、代替案を模索している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居する際は、利用者本人と会話する機会を多く設け、困っていることや不安なことを聞いて安心感を与えられるように努めている。また家族からも今までの過ごし方を聞くことで、施設で安心して過ごしてもらえるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階で利用者のご家族と面談する機会を設け、本人の主訴やご家族の希望を取り入れたケアプランを作成しており、時間をかけて信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時や面談時に今何に困っていて、どんなことが必要かを把握し、サービス提供している。また必要に応じて入居フロアの職員で会議を設け、必要な対応を協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを一番に考え、各利用者の気持ちに応えられるよう関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は常に家族と共同で支援する立場でサービスを提供している。(互いに、本人ができることを継続し、できないことを支援する形の関係作りに努めている。)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際は、職員を抜きにした面会の場を提供している。面会後も職員が利用者に対し、話を聞くことで、昔のことを回顧してもらい、本人と訪問者との関係が途切れないように支援している。ただし、コロナ感染防止の観点から、感染者が多い時期には直接面会を制限させてもらっている。	面会は感染対策をした上で、管理室や居室で予約制で対面で行っている。利用者の昔の仲間が訪ねて来た際には、和やかに会話を楽しんだ。かかりつけ医が馴染みの関係となり、往診の際に目を輝かせている利用者がある。近くのスーパーに買い物に行った時に、元職員と出会い懐かしさで会話が弾んだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各人のレベルを把握し、利用者同士がスムーズに会話できるよう、間に入って話題を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所になった場合でも、いつでも相談できる窓口を伝え、本人とご家族へのフォローアップも忘れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とご家族の要望を取り入れたケアプランに基づきケアを提供し、可能な限り寄り添う介護を目指している。	発語が困難な方には、日頃の仕草や表情から汲み取り、家族からも聞き取りをして思いの把握に努めている。利用者の情報はパソコンに入力し、職員間で情報共有してケアに反映させている。家族とはSNSで密な連絡をしており、情報が得やすい環境がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に行う面談でフェイスシートを作成し、これまでの生活環境などの情報を対応にあたる職員全員と共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月行っている現場での会議(ケア会議)にて、モニタリングシートの状況と職員との意見交換など通じて現状把握に努めている。 また必要な場合にはフロア単位で集まる機会を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議にて各利用者の課題点を話し合い、それをベースにしたケアプランを作成し、ご家族に意見を伺いながらプランを作成している。モニタリングを行うことで、提供するケア内容とケアプランの内容の誤差が無いように努めている。	入居時に作成したケアプランは、1か月後に見直し、何もなければ6か月後にケア会議にて話し合い、利用者の状況に応じて作成している。月1回のケア会議では、職員の意見とADL確認シートを基に、利用者個別のより良いケアについて話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のケア会議で簡易アセスメント及びモニタリングシートを使いながら現状を共有し、ケアプラン見直しの際はアセスメントを再度行いながら作成するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に合わせて面会時間の変更やご家族ができないことは施設ができる範囲で実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書の利用やレクレーションとしてビデオ鑑賞、紙芝居を行い、普段から楽しめるように工夫している。また目標を決めて図画・工作を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に施設のかかりつけの医療機関を説明し、納得していただければ担当医の変更をお願いするが、強制ではないので、入居前の担当医で継続する場合でも受診に差支えが無いように支援を行っている。	かかりつけ医にほとんどの利用者が転医している。週1回の往診があり、日頃も不定期だが、利用者の様子を見に来てくれる。24時間対応してくれる。施設内の看護師を増員し、利用者や職員の安心に繋げている。歯科は週1~2回の訪問があり、口腔ケアやブラッシングケアの指導がある。他科への受診は職員が行い、家族に結果を報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化があったときは看護師に早急に連絡し、指示を仰いでいる。また必要な場合には家族や医師に連絡ができるような体制もできている。今年度途中から、看護師を2人体制にし、急変時の対応などに人員の余裕を持たせている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病状、治療方法、退院の目処や退院後の生活について病院側と密に連絡を取り合い、入院前の状態にできるだけ早く復帰できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設としてのターミナルケアの方法を説明している。また重度化してきた場合や終末期が近づいてきた際には改めて家族と面談を行い、本人・家族の希望に沿って今後の方針を決定している。	看取りは可能で、近年2名を看取った。入所時に重要事項説明書で看取りに関して家族に意向確認をし、終末期に差し掛かった際には再度、家族、医師、施設の三者で話し合いの場を設けている。デスカンファレンスでは、エンジェルケアや家族への連絡のタイミングについての意見が挙がり、今後のケアに反映させている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で緊急時の対応は各職員が把握できるようにしており、応急手当などは定期的に専門家の指導のもと、訓練・実習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域推進会議で地域との連携を確認するとともに、避難方法も年2回の避難訓練とBCPIに基づく訓練の中で対応力を強化できるようにしている。	年2回昼夜想定で、火災・水害訓練を実施して、AEDの研修もできた。連絡網を実際にSNSで行い、より早く連絡できるように新たに職員の緊急連絡グループ網を設けた。施設を避難場所として町内会に伝えている。備蓄は菓子、缶詰、水3日分と衛生品を施設の2.3階に準備している。	災害時の対応や地域との連携について更に検討してはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、更衣、トイレ使用時やパッド交換の時はプライバシーに配慮し、言葉かけや、他の利用者・職員と距離をとって対応している。	年1回、接遇やプライバシー保護の研修を行っている。呼称は基本的には苗字にさん付けで呼んでいる。反応が良い下の名前やあだ名で呼ぶことがあるが、本人や家族に了承は得ている。排泄失敗時には、さりげなく声をかけ、プライバシーに配慮して、居室やトイレに誘導し対処している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	先に目的や答えを言ったり、誘導するのではなく、利用者がまず何をしたいかを聞き、利用者が自立できるように工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にあった、その人らしい時間が流れるように本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や、女性の場合はお化粧についても本人の自己決定を優先し、意欲を引き出すような言葉かけを心がけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを作る段階で利用者の意見を取り入れるようにし、準備や後片付けに関しても、可能な方にはできるだけ手伝ってもらっている。	調理専門の職員が昼・夕食を作り、ご飯とお味噌汁は各フロアで作っている。お正月にはおせちや雑煮を、ひな祭りにはお寿司を提供した。利用者の要望でカップラーメンを提供した時は、珍しいと喜ばれた。地域の方から頂いた旬の野菜を使った料理が出されることがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分の摂取量は都度記録をとり、十分な栄養が取れるように職員間で連絡をとりあっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれのADLに応じて口腔ケアの準備をしたり、口腔ケア自体を行ったりして口腔面の衛生管理を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各職員はパッドをしているからトイレに行かなくていいという認識はなく、あくまで排泄はトイレで行うものだという認識でケアにあたっている。	排泄チェックシートは、タブレットで管理している。排泄チェックシートやケアプランにより、タイミングをみて利用者に応じた言葉掛けをしている。利用者の希望や状況に応じて、ポータブルトイレを夜間のみ利用している方も数名いるが、できるだけトイレ誘導に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録に残し、便秘予防に努めている。また必要な場合には往診時に整腸剤を処方してもらったり、看護師による処置を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調やその時の気分などを考慮してその人に合った入浴を行っている。	入浴は週2回提供している。入浴剤は利用者の好みに応じて使用している。ゆず湯やしょうぶ湯を提供し、季節を感じる工夫を行っている。入浴を嫌がる利用者には、職員や時間を変えるだけでなく、“お風呂”というワードを使わず自然に誘導する工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が自由にできるようにしている。ただし、ずっと部屋にひきこもりにならないように都度声かけを行い、共同生活している他の利用者との交流の場も提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方された際は処方箋についてくる薬の説明書きに眼を通し、薬の効能や副作用について確認を行っている。また研修でも服薬についての勉強会を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今出来る事は継続してできるよう、自室の掃除や下膳、私物の整理など出来ることはしていただき、レクリエーション参加による気分転換も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣を散歩したり、ご家族のご協力を得て美容院や図書館、スーパー等へ出掛けたりしている。コロナ禍においては感染予防のため、制限していることが多くなっている。	利用者と一緒に近くのお店へ出掛け、食品や手芸用品を買っている。馴染みの美容院や近隣の図書館へ家族と行くこともある。桜が咲く季節には、お茶会を庭で行なっている。桜の前でピースサインをした満面の笑顔の写真からも楽しそうな様子が伺えた。ドライブで自宅付近や後樂園へ行き、気分転換となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の金銭トラブル防止の観点から、基本的に利用者様に金銭を所持していただくことは遠慮していただいているが、必要な場合においては、事務所管理するなど、各々に応じた対応をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を作成する支援や、ご家族に負担の無い範囲で電話をかけることへの支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節を感じる飾りつけを行っている。また、フロア毎に利用者様の写真を飾ったりするなど、工夫をこらしている。	施設内にある桜が毎年咲き、心の癒しとなっている。壁面には季節を感じる桜の木の貼り絵が貼られている。利用者は午前中はリビングで、リハビリ体操やレクリエーション活動を行っている。職員による日本昔話の朗読会が行われることがある。午後からは一旦居室で寛ぎ、おやつの時間以降はリビングで職員と談笑して過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングより少し離れたソファやベンチ等で気の合う利用者様同士が会話したり、ゆったりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの家具以外にも、使い慣れたものや本人の趣旨にあったものを置いてもらい、自宅のように過ごしているような空間を提供できるように努めている。	居室の表札には住所や郵便ポストが備え付けられている。仏壇や使い慣れた家具を置き、家族に思いを馳せている利用者がある。テレビやラジオを楽しんだり、昼寝をして寛ぎの時間を過ごしている。清掃は職員が毎日行い、清潔に保たれている。家族写真や職員手作りの誕生日カードを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLにあった支援策をケア会議等で都度検討し、安全かつ自立支援を推進できるようなケアを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない